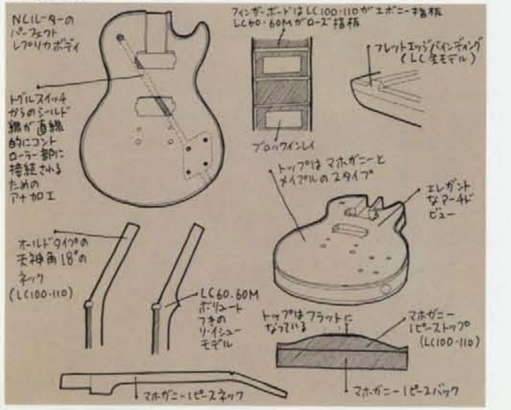
LC LOVE ROCK CUSTOM SERIES

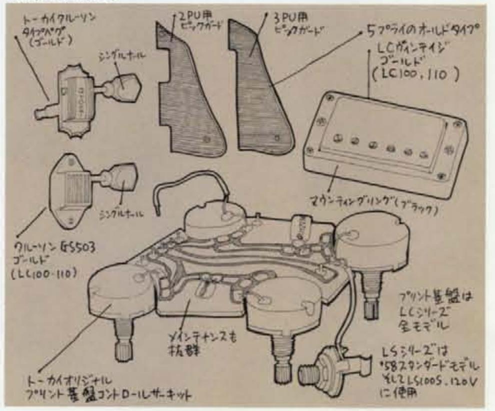
現代工学とクラフトワーク、
これほど高度な融合に達したギターがあっただろうか？

●ヘッドストック：カスタム特有の美しいバインディングが施されたヘッドストックの登場だ。このバインディングは外側よりクリームとブラックの計6プライで構成されているという豪華さで、ヘッド部全体をひきしめゴールドタイプペグとのコントラストがリッチ感覚いっぱいだ。トーカイのロゴもピシリときまりレスポールシリーズ最高級モデルのフンイキをいかんなく発揮している。●ネック：LSシリーズ同様'57年モデルであるLC-110、LC-100の2機種にはネック角18°の最高級マホガニー1ピースネックを採用、抜群の音響特性はもちろん優れたネック強度を誇っている。トラスロッドのセッティングも完璧だ。そしてLC-60とLC-60Mの2タイプには再生産モデルであるボリュート付のマホガニーネックを採用している。オールドタイプとくらべるとヘッドストック面も少したくネック角も14°となっており、これがいわゆるリ・イシューモデル特有のライトテンションサウンドを見事にクリエイトしているわけだ。最近ますますフュージョンミュージックの確立で出番の多くなってきたカスタムモデルだけに注目しておきたいところ。またプロジェクトチームじまんの、早いパッセージのフィンガリングにもスムース、ハイテクニカル・プレイヤーのニーズに応えるニギリ形状もみのがせない大きな魅力だ。●フィンガーボード＆フレッチング：フィンガーボードはエボニー指板(LC100, LC110)とローズ指板(LC60, LC60M)の2タイプ仕様。ポジションマークはカスタム特有のブロックインレイ。ところでこのフィンガーボードが音質面にかなり影響してくることを知っているだろうか?!たかがフィンガーボードで…などとナメちゃイカンのです。ストレートでシャープなカスタムサウンドの大きな要因はこのエボニーフィンガーボードならではのサウンドなんだ。そしてLS60、60Mのローズ指板はそれよりマイルドなカスタムトーンが特徴で、個性にあわせて使いわければモアベターヨというところ。次にフレッチングだが①フレットエッジバインディング(LC110, LC100)と②オーバーバインディング(LC60, 60M)の2タイプだ。詳細はLSシリーズの項で説明ずみだネ。フレットはスタンダードに比べて少し細くなっている。幅2.4㎜高さ0.7㎜。自分でフレットファイリングしすぎて、文字どおりフレットレスワンダーにしない様くれぐれも注意しておく。エッジ処理、ファイリング等も完璧だ。インプロヴァイズドプレイの鼓動が早くも聞こえてきそうなパーフェクトネックだ。●ボディ：LCシリーズのボディはオールドモデル('57年型)とリ・イシューモデル('72年型)の2タイプ。オールドモデルの歴史を少し紹介すると…カスタムモデルができたのが1954年。1ピースマホガニーのボディで両サイドにバインディングを施したボディ、ピックアップはシングルコイルタイプを2ケ、マウント。そして1ピースマホガニーネックにエボニー指板、ゴールドパーツ仕様ブラックビューティ、フレットレスワンダー等のニックネームで呼ばれ華々しくデビューした。そして1957年に革命的PAFハムバッカーがマウントされ3PU仕様(LC110)、そしてごくまれにみられる2PU仕様(LC100)のモデルとなるわけだ。またカスタムモデルはオプションモデルも相当数作られており特注仕様が非常に多いモデルとしても有名だ。その後ご存知の様に1963年にSGカスタム(現在のSGのボディシェイプ)と名称され第1期カスタムモデルはここに終りを告げる。しかし1968年に再び生産を開始、トップをメイプルに変更、おおよそ他のアウトライン・仕様はそのままにハムバッカーが2ケ、マウントされたレスポールカスタム・リイシューモデルとして現在に至る。LC100、110は以上の様にオールドモデルを忠実に再現、LC60はミドルクラスながらマホガニートップ＆バックを採用、再生産モデルのネックをジョイントした異色のモデルとなっている。LC60Mはメイプルトップ＆マホガニーバックのボディコンストラクションで再生産モデルをそのままに再現したモダンカスタム。豊かなラインアップのLCシリーズを構成している。●アーチドトップ：エレガンスかつビューティフルなアーチドトップもLSシリーズ同様パーフェクトだ。中心部がフラットで流れる様なカーヴドラインがマホガニートップあるいはメイプルトップに鮮やかに施され完成度の高いLCシリーズを構成している。特にマホガニートップのあたたかみのあるアーチドトップはそのオプションカラーであるワインレッドと相まって抜群の色彩感を放っている。すきとおる様な深みのあるワインレッドがLCシリーズの象徴だ。ブラックビューティのボディとともに個性的なアーチドビューを競っている。●驚異のボディ加工：ご存知の様にトーカイでは驚異の「コンピューター制御の3次元ルーター」を採用。正確無比の機械力と繊細な工作技術をもつクラフトマンの参加によるパーフェクトレプリカモデルを続々と誕生させている。ディテイルの仕上ガリも完璧だ。これこそ本当のコストパフォーマンスと言うべきでLS、LC、ES等、その他トーカイのすべてのシリーズでその実力を発揮している。そしてLC、LSシリーズの「中ぐり工程」もスゴイ。長さはおよそ38cm、これをあける穴あけ機は何と2m以上、ドリルは50cmもある。他ではちょっとマネのできない工作法だ。これらはトーカイが誇る技術力の単なる1つにすぎない。まだまだたくさん見えない技術が1本のギターの中にいきずいている。●ペグ：楽器はチューニングが命！と言える位で特にギターではこのペグが重要だ。LCシリーズはLC110, 100に本家本元のクルーソンGS503をマウント。LC60, 60Mにはプロジェクトチーム汗と涙の結晶であるオールドクルーソン・ゴールドタイプペグを採用している。2条ネジでガタツキもなく高性能、チューニングセクションをガッチリとサポートする。ツマミは両方とも樹脂性のシングルナールタイプ。再生産モデルであるLC60, 60Mにもあえて使用した理由は理想的な精度と抜群のペグヘッドフィーリング味わってもらいたいからなんだ。●ピックアップ：サウンドの要であるピックアップにもトーカイの技術が生かされている。新開発「LCヴィンテイジ」「LCダイナミック」はそれぞれの個性をはっきりと主張。グレイトなカスタムサウンドをクリエイト。光輝く様なゴールドピックアップカバーに身を包んでいる。何度も言う様だがこのピックアップもパーフェクトなハードウェアがなければぜんぜん生きてこない。もちろんLCシリーズのマホガニーコネクションは強烈だ。メイプルトップとは違う味わいの粘る様なサスティンが実に心地よい。ジャージーなサウンドからハードディストーションまでバッチリきまる。LC110はピーター・フランプトンでおなじみの3PU仕様。そのサウンドヴァリエーションはストレイトなサウンドからフェイズアウトサウンドまで実に多彩。リードワーク、サイドワークを1本のギターに凝縮させてしまったハイクオリティな仕様だ。●マウンティングリング：ブラックタイプのマウンティングリングが全機種に採用されゴールドのピックアップとのコントラストもgoodyだ。形状もオリジナルカスタムと全く同寸法で作られ、リアピックアップ側がLSシリーズ同様かなり深く改造キッズにあってもガッチリとコイルをサポートしてくれる。底がフラットになっていることは言うまでもない。●ソーサーノブ＆スイッチノブ：ソーサーノブは全機種ブラック仕様。スタンダードのゴールドタイプとは大部趣を異にしているこのノブもオールドモデルと現行モデルでは大部形状が違っているからおもしろい。LCシリーズは全てのモデルにこのオールドタイプのソーサーノブを使用している。スイッチノブも同様で、オールドタイプを採用。すべてに素早く確実なコントロールアクションを実現している。●ブリッジ＆テールピース：ブリッジ＆テールピースは美しい仕上げのゴールドタイプ。形状・材質すべてオリジナルと同じマテリアルで再現(LC100, 110)。ピッチ調整・弦高調整も思いのままだ。このT・O・M(チューンオーマチック)と呼ばれる方式も1954年にはじめてカスタムから採用されたもの。長い歴史をきざみこんだスペシャルメカだ。●コントロールソーサーキット部：ピックアップがハムバッキングになっているからといってスイッチや配線部にノイズが出る様ではもちろんダメなのだ。トーカイのギターにはもちろんこんなことはない。まずコントローラー部には新設計のプリント基盤を採用した。こうすると電気特性における信頼度もグンと増しメインテナンス面でも一段と向上。一石二鳥というわけだ。そのうえコントローラー内部の木はだには導電塗料を塗布しウラカバーには金属はくがはってある。これだけやっておけば完全なシールド効果が得られ、どんなトラブルにもバッチリ対応できる。●カラー：LCシリーズのカラーは3種類、ファクトリーオリジナルのオプションカラーであるワインレッド(WR)にオリジナルカラーのブラックビューティ(BB)そして美しいチェリーサンバースト(CS)である。LC100, 110はラッカーフィンッシュ。あたたかみがあり味わい深いカラーがグッドフィーリングをかもしだしている。

●ネック＆ボディ


NCルーターのパーフェクトレプリカボディ
フィンガーボードはLC100・110がエボニー指板
LC60・60Mがローズ指板
フレットエッジバインディング（LC全モデル）
トグルスイッチからのシールド線が直線的にコントローラー部に接続されるためのアナ加工
ブロックインレイ
トップはマホガニーとメイプルの2タイプ
エレガントなアーチドビュー
オールドタイプの天神角18°のネック（LC100・110）
LC60.60Mボリュートつきのリイシューモデル
トップはフラットになっている
マホガニー1ピーストップ（LC100・110）
マホガニー1ピースネック
マホガニー1ピースバック

●ハードウェア＆パーツ

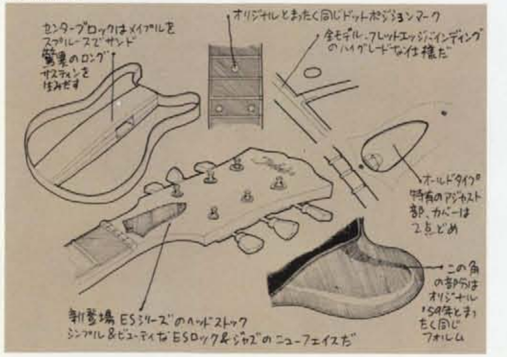

トーカイクルーソンタイプペグ（ゴールド）
シングルナール
2PU用ピックガード
3PU用ピックガード
5プライのオールドタイプ
LCヴィンテイジゴールド（LC100, 110）
シングルナール
マウンティングリング（ブラック）
クルーソンGS503ゴールド（LC100・110）
プリント基盤はLCシリーズ全モデル
メインテナンスも抜群
LSシリーズは'58スタンダードモデルそしてLS100S.120Vに使用
トーカイオリジナルプリント基盤コントロールサーキット

ES ELECTRIC SPANISH SERIES

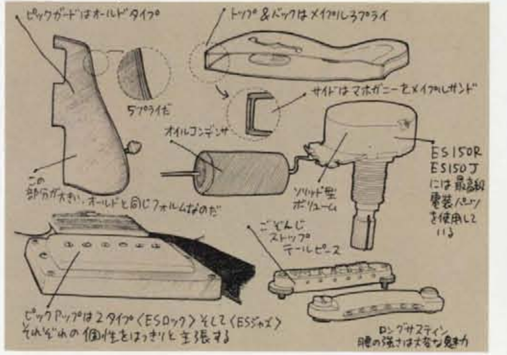
先鋭化するミュージックシーンに衝撃をなげかけた
トーカイ独自の新しいサウンドコンセプト。

●トーカイESモデルは何年モデル？：エレクトリックスパニッシュ通称セミアコースティックモデルと呼ばれているこのモデルはその製作における完成度が極めて困難なシロモノだ。トーカイESシリーズが1つのオリジナルモデルを限定して開発しなかった理由はここにある。たえず流動的に変ぼうし続け完成度を向上させていったオリジナル335モデルであればこそで、トーカイではあえて'59年から'64年モデルまでを徹底研究。木工精度、音響特性に優れたところをセレクトして製作している。つまりオリジナル335の優れた部分を全部抜きとり製作することでセミアコースティックギターとしての完成度をグーンとあげ、ハイクオリティなモデル生みだしたというわけだ。だからESロックモデルもESジャズモデルも基本マテリアルはオリジナル335 '59〜'64モデルということになる。新しいサウンドコンセプトを追求するトーカイ・ESシリーズに期待してほしい。●ヘッドストック：新登場ESシリーズのヘッドストック。シンメトリーで印象的なスモールタイプのヘッドストックにシングルナールのオールドクルーソンタイプペグが抜群のオールドフィーリングを生みだしている。そしてアジャストカバーに注目して欲しい。2点止めのアジャストカバーはトーカイオリジナル。その下にセッティングされたトラスロッドのアジャストエンドはナットより上に位置している。これはオリジナル335の特徴であるとともにオールドギブソンの特徴だ(もちろんLS、LCシリーズも共通)。このアジャストカバーに3点止めなんてのもあるから注意してほしい。●ネック：全機種マホガニー1ピースネックを採用。完全レプリカモデルを追求するトーカイとしてはあたりまえのことだ。特にセミホロウボディの場合はハードウェアが命だ。もちろんピックアップも大事だが、その特性をひき出すネックとボディのコンストラクションが重要となってくる。マホガニー1ピースネックの採用は単にオールドモデルが使用しているからではなく音響的にも強度的にも優れ、ネック材としては最高の材料だからである。伝統的なジャズや革新的なロックミュージックをめざすミュージシャンへの最高のおくりものだ。●フィンガーボード＆フレッチング：ES100にはローズ指板、ES150にはエボニー指板をそれぞれ採用。ポジションマークはもちろんオールドタイプのドットポジション(白ちょう貝＆セル貝=6.5Φ)がシンプルながら味わい深いオールディーなフィーリングを見事に再現している。フレッチングも完璧で全機種フレットエッジバインディング。弦ズレ防止はもちろんスムースなフィンガリングを約束している。フレットは幅2.7㎜高さ0.9㎜。ネックニギリ形状も最も完成度が高いとされている'59年後期〜'60年前期のデーターをもとに形成したプロフェッショナルカット。違いのわかるミュージシャンにすすめたい自信作だ。●ボディ：ボディの話しに入る前にまずESという名称について。ESの略は実はエレクトリックスパニッシュというのが正式名称で、セミアコースティック、セミホロウボディという名前がなぜ使われているのか不思議といえば不思議な話。たとえばES335というのは決してただの335モデルではなく、エレクトリックスパニッシュ335モデルなのだ。トーカイESシリーズは文字どおりきっすいのエレクトリックスパニッシュモデルだ。ボディ構造は図のとおりでセンターブロックとトップ＆バック、そしてサイドのいわゆるハコの部分から構成されている。●センターブロック：メイプルをスプルースでサンドしたセンターブロック、ボディのトップからエンドまで中心部をひた走るこのセンターブロック、ストップテールピース方式とともにロングサスティン、腰の強いサウンドを生む大きな要因のひとつとなっている。●トップ＆バックそしてサイド：トップとバックはメイプル3プライ使用。サイドはマホガニーをメイプルでサンドした3プライ仕様。弦振動のゆたかな響きを確実にホールド、理想的な音響特性を誇っている。音のたちあがりも完璧で、ジャージーでアコースティカルなサウンドはこのESシリーズならではの味わいだ。●ボディシェイプ＆アーチドビュー：ボディシェイプは現在のモデルとは若干異なりツノの部分が大きなカーブを描いてダブルカッタウェイを形成している。ボディ形状は'59オリジナル335をパーフェクトに再現、そしてスタンダードに負けず劣らずESモデルのアーチドビューもトップ＆バックともエレガンスかつビューティフルだ。先に説明したとおりトーカイESシリーズはメイプル3プライボディ。この非常にかたく木工加工が困難とされている材料でこれだけのアーチがつけられるのも㊙技術があればこそ。これがたとえばメイプルの間に別のやわらかい材料をはさんで構成するならいとも簡単。しかしあくまでもサウンドを考えた結果のメイプル3プライだから技術のみせどころとなるわけだ。●ピックアップ：さていよいよ核心に入る。トーカイのESシリーズは考えてみると他社のモデルとはチョット違う。いや大変な違いと魔力を秘めたギターなのだなコレが。ボディとネックのコンストラクションによるハードウェアが完璧なのは今まで説明してきたとおりだがこのパーフェクトボディに搭載するピックアップが「ES・ロック」そして「ES・ジャズ」のいずれもESシリーズのために特別に開発されたスペシャルピックアップで2タイプの音質の異なるピックアップが用意されている。これが実は何を隠そうプロジェクトチームがセミアコースティックギターを開発するにあたり長い間あたためていた重要事項の1つなんだ。つまり1本のギターでロックからジャズまで全てのサウンドをフォローするのは不可能に近いと考えた。オールラウンドな楽器というものの、ここ一番この音が欲しいと思った時に希望どうりの音がでなかったり、一歩間違えば二兎を追う者は一兎も得ずの諺の如く中途半端なサウンドしか出ずロックにもジャズにも全然使えないソバイセクシュアルサウンド(ナウい言い方)になっちまうわけだ。これではいただけない。そこでトーカイは新しい方向性、発想の転換ともいうべき革新的なサウンドコンセプトを見い出した。それが「ES・ロックモデル」と「ES・ジャズモデル」。互いにはっきりと個性を主張したうえでオールラウンドなサウンドシーンにきり込む事ができる。強いキャラクターが要求されるミュージックシーンにズバリ捧げるプロジェクトチームの解答だ。●ES・ロックピックアップ：文字どおりロック志向の強いセミアコースティックプレイヤーのために開発したピックアップ。シャープな高音、タイトな低中音が特徴で、もちろんメローなナチュラルトーンも自由自在。メリハリのあるサウンドが武器だ。ソフトディストーションそして時にはハードなディストーションまで、今までの甘すぎて困っていたアコースティックサウンドにピリリとコショウを入れた注目のサウンドがたまらない。ES150Rにはハイクオリティピックアップの代表ディマジオ「PAF」をマウントしている。●ES・ジャズピックアップ：これがセミアコ通のマニアそしてプロを泣かせたウワサのピックアップ。先のESロックとは全然違い、これはどちらかというとフルアコに近いサウンドが強調されている。ちょっとこもり気味で甘い中音がたまらないのであります。ジャズ特有の7thや9thを駆使したコードにもバッチリとけこみ厚みのあるサウンドを展開する。生粋のジャズギタリスト、ニューフュージョンシーンをクリエイトする精鋭におくりたいプロジェクトチームの自信作。カバードタイプで中はクリームボビンだ。●スペシャルスペックパーツ：〈ペグ〉ご存知トーカイクルーソンタイプペグ。オールドタイプだからしてシングルナールの樹脂製ツマミ。気品よく抜群のペグヘッドフィーリングを誇る。恋のバッドチューニングも心配なし。高性能でガタツキのないペグでいつもグッドチューニングにしておこう。〈ブリッジ＆テールピース〉ブリッジとテールピースもオールドドンズバのスペシャルスペックだ。ブリッジはブラスでロングサスティンの向上に一役買っている。ロングサスティンと言えば何といってもストップテールピースにつきる。センターブロックにガッチリとダイレクトスタッドされたブリッジ＆テールピースからとび出るサウンドはもうリー・リトナーやカールトンの世界だ。〈ソーサーノブ＆スイッチノブ〉ソーサーノブとスイッチノブもこれまたオールドタイプ。気品あふれるゴールドノブは素早いコントロールアクションにも鋭く反応できるトップハット型。ヴァイオリン奏法も思いのままだ。スイッチノブは一気にタイムトリップしオールドのフィーリングを見事に再現した素晴らしいカラーリング。〈コントロールサーキット〉コントロールサーキット部もトーカイならではの親切設計。特にES150R、150Jにはソリッド型ヴォリューム、オイルコンデンサー等、最高級の電装パーツを採用。より安定したものとしている。シールディング効果も抜群。メインテナンス面も完璧だ。〈カラー〉カラーは全部で3種類。全シリーズにブラックサンバースト(SB)、トーカイレッド(TR)、ナチュラル(N)が用意され、ES100R、ES100Jはオールドタイプラッカーフィニッシュ。そしてES150R、ES150Jはスペシャルオールドカシューフィニッシュとなっている。その味わい深いカラーリングを実感してほしい。

●ネック＆ボディ


センターブロックはメイプルをスプルースでサンド
驚異のロングサスティンを生みだす
オリジナルとまったく同じドットポジションマーク
全モデル・フレットエッジバインディングのハイグレードな仕様だ
オールドタイプ特有のアジャスト部、カバーは2点どめ
この角の部分はオリジナル'59年とまったく同じフォルム
新登場ESシリーズのヘッドストック
シンプル＆ビューティなESロック＆ジャズのニューフェイスだ

●ハードウェア＆パーツ


ピックガードはオールドタイプ
トップ＆バックはメイプル3プライ
5プライだ
サイドはマホガニーをメイプルでサンド
オイルコンデンサ
ES150R ES150Jには最高級電装パーツを使用している
この部分が大きい、オールドと同じフォルムなのだ
ソリッド型ボリューム
ごぞんじストップテールピース
ピックアップは2タイプ〈ESロック〉そして〈ESジャズ〉それぞれの個性をはっきりと主張する
ロングサスティン腰の強さは大きな魅力